

GMS

Global  
Management  
Supporting  
Partners

# 特定非営利活動法人 チャレンジ企業支援隊 会報

Vol. 22 2018年2月1日

発行:理事長 山崎健一郎

TEL&FAX 0742-41-7839

編集(広報担当):副理事長 馬場英彦

TEL 0743-75-1658 E-mail bamba@m4.kcn.ne.jp

## 巻頭言

(理事長 山崎健一郎)



新年明けましておめでとうございます。昨年中に皆様方から賜りましたご支援とご協力に対し厚く御礼申し上げます。

さて、今年はどうなるのか。

2018年の干支、戌(いぬ)は、株式市場の相場格言では、「戌笑う」と呼ばれ、縁起の良い年とされます。果たして格言どおり「笑える」1年になるか。

一方、企業を取り巻く環境は、「AI(人工知能)の進化などで、変化は激しさを増しており、先を見通すのが難しい時代になったとも言われます。

日経ビジネスの正月号に「稲盛和夫氏のインタビュー」が掲載されていました。この様な時こそ、人間として何が正しいのかを判断基準に行動すべきで、特に、次の「6つの精進」を提唱されています。

- 1.誰にも負けない努力をする
- 2.謙虚にしておごらず
- 3.反省のある毎日を送る
- 4.生きている事に感謝する
- 5.善行、利他行を積む
- 6.感性的な悩みをしない

昨年、チャレンジ企業支援隊(GMS)では、「これから2~3年先のあるべき姿」について、課題の明確化と役割分担について検討しました。

今年、具体的に実行する年にしたいと思います。

今後とも、「チャレンジ企業支援隊 運営理念」を堅持して、事業の推進を図って行く決意致しております。

### ＜チャレンジ企業支援隊 運営理念＞

社会貢献を基本精神とし、人的なネットワークと連携を大切にしながら、会員の経験・知識・専門技術を活かし、中小企業やベンチャー企業などの支援を通じて、経済社会の活性化と地域社会の健全な発展に寄与する事を目指す。

今年も、関西の元気回復のため、お役に立てるよう尽力して参ります。引続きのご支援とご鞭撻を願ひし、年頭のご挨拶とさせていただきます。

## マーケティング部会の活動内容と抱負

(副理事長 マーケティング部会長 馬場 英彦)



当部会では毎月の部会を活動のプラットフォームとして、メンバーの持つノウハウや活動を結集し地域社会に貢献して参ります。

### 1) マーケティング部会の開催

毎月第1木曜日に、私が担当する産学連携のデザインに力を注ぐ「大阪市立デザイン教育研究所」にて実施しています。本年1月で第160回を迎えました。

前半ではデザイン学生も参画し、会員の企業支援取り組み内容を中心に「ミニ講演会」を実施し、メン



バーの日頃の活動を紹介し、新たな地域活動へ

の情報交流の場としています。

### 2) シニア層の活性化への取り組み

マーケティング部会の「ミニ講演」から生まれたプロジェクトをご紹介します。人生90年時代を迎え、1億総活躍社会でのシニアの生き方に関心を持ち、定年退職後の第二の人生の生き方への提言。シニア時代に培ってきた経験・技術・人脈を、さらに輝かせ、日本を元気にする「研修」を立ち上げました。シニア世代を抱える中小企業様や個人を対象に、この事業を具体的にどのように展開するかを皆さんと共に考えて参ります。

### 3) 川上・川下ビジネスネットワーク事業の支援

兵庫県下の信用金庫協会様との連携で、企業様を訪問し、経営課題やニーズ・シーズを発掘し、ビジネスマッチングや販促支援活動を行っています。



幼児向け玩具を提案するデザイン学生

和菓子のR店では地域に密着したストーリーをパッケージや店舗改装に取り入れたプロジェクトの支援例です。また段ボール製造企業様とは端材の有効活用をはかり、幼児向けの玩具や教材を産学協同でデザインし全国の保育園へ提供事業に取り組みます。

#### 4) 季刊誌への編集支援

暮らしの視点を大切に「子育て」「親子」「夫婦」「家族」などの課題に取り組む団体が発行する季刊誌「おうらい」へ本年度は会員による創作童話「はばたけ！1、2、の3」ならびにイラストを提供します。

#### 5) A社様の経営支援

昨年に引き続き、70余年の歴史を持つA社様の新規事業分野の開発を中心に「経営トップとの懇談会」を定例開催しています。特に本年度はオリンピックのインバウンド客をターゲットとして、「サイン事業革新プロジェクト」では、交通広告・屋外広告・展示広告の専門集団との連携で本格的に展開して参ります。

#### モノづくり部会の活動内容と抱負

(副理事長 モノづくり部会長 阪本 徳男)

モノづくり部会は、次の7つの活動を柱に取組んでいきます。

##### 1) モノづくり部会 (毎月開催)

部会行事打ち合わせ・各員の活動状況相互紹介・情報連絡に加え

会員のGMS以外のNPO活動、イベント参加報告、デジカメ・PC教室を行うと共に中小企業様幹部の方々に、支援の在り方などについてもアドバイスを頂いています、今後内容の充実を図り、共有課題を論議して行きたいと思っております。

##### 2) GMS経営勉強交流塾

企業一社では困難な企業訪問をGMSが訪問先の

選定・準備を行い、企業の優れた点を工場見学で学び、質疑応答で自社の経営課題解決の参考と



見学・会議終了後の記念撮影 して頂きます。

昨年は7月と11月に東大阪市の企業様を訪問し、

工場見学・GMS会員の発表と相互の意見交換を行いました。今後は新しいヒューマンネットワークで新訪問企業の設定と新参加企業の勧誘にも力を入れていきたいと思っております。

#### 3) 経営実践塾

具体的な事業課題に焦点を当て、実践的な塾活動を行う「経営実践塾」とする事により、研修ではなく仕事としての位置づけを明確にします。

事業課題に関与している、あるいは関与させたい開発・生産・販売等の選抜責任者でチームを編成し、社長出席



のもと、定期的、継続的な「実践塾」であり、

経営に関 **支援先忘年会にも参加 (本音も飛び出す)** する幅広い知識と経営感覚を学んで頂いています。

2015年1月より大阪市内の企業様で実施、2017年は柏原市の企業様にも実施させて頂きました。更なる努力で新規企業様にも実施させて頂きたく思っています。

#### 4) 中小企業様の経営・事業開発支援

大阪の企業様に支援として「商品計画・商品企画の支援」を約四年間実施し、非常に密な連携で企業様の根幹である経営課題の支援までも実施させて頂いております。2017年は新製品企画を中心に支援をさせて頂き、2018年も継続支援の予定です。

新規企業様の開拓にも取り組んでいきます。

#### 5) 一般社団法人関西産業活性協議会 (K I A C) との連携

近畿経済産業局公募事業に関し、公募説明会から参画し、受託事業のCDとして調査事業に参画させて頂いており、今年モノづくり部会の衆知を集めて参画させて頂きました。

#### 6) 中小企業等経営強化法

新しい取り組みとして、中小企業等経営強化法のセミナーに参加し、大阪市の企業様の支援を実施させて頂き、認定を取得致しました。今後は支援内容の充実と企業様の拡大を図って行きたいと思っております。

#### 7) 中小企業様の支援に関する情報収集

中小企業様の支援の情報入手、ネットワーク構築の為、昨年は経産省説明会、研究・イノベーション

学会、サポイン事業説明会、機械要素技術展、CEATEC、東大阪産業展、オープンイノベーションセミナー等数多く参加しました。本年も昨年同様に、中小企業様支援に関する見聞を広げ、支援拡大を図って行くと共に、情報発信の充実に努めたいと思います。

最後にモノづくり部会は**伝統と革新のベストミックスで活動を継続し**、本年は、中小企業様の支援で新しい制度と新しい支援内容を検討して行きます。

### 『奈良県よろず支援拠点』発足から三年半経過

奈良県よろず支援拠点チーフコーディネータ  
(理事 松村 二郎)



事業担当理事の松村です。

2014年6月に中小企業・小規模事業者の為の経営相談所として各道府県に一か所設置され、全国一斉にスタートしたよろず支援拠点は、

発足して3年半が経過しました。私が責任者(チーフコーディネーター)を務める奈良県よろず支援拠点では年々相談件数が大きく増加しています。お陰様で、ご相談事業者の満足度も極めて高く地域活性化のハブとしての役割を果たせつつあると **サテライトオフィス(近鉄奈良駅前)** 喜んでおります。



サテライトオフィスでは、夕方や土曜日オープンし、事業者皆様の利便性をアップしています。また週3回以上の頻度で県内の各支援機関と連携したセミナーや出張相談会を実施しており、このような活動により、よろずの知名度が非常に高まってきていることを実感しています。本年も、しっかりと事業者の方々に寄り添い、事業者の求める成果があがる支援をしなければならない、と決意しているところです。

相談内容の内訳は「売上拡大」が全体の52%を占め、「経営改善」が10%となっています。また、「創業」が38パーセントあり、非常に多くの創業予定者の方が相談に来られているのも当拠点の特徴です。今後は、「事業承継」への課題対応が非常に重要になると考えております。

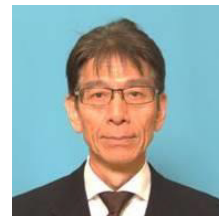
今年度の当拠点の活動目標は①奈良県中小企業・小規模事業者支援のハブ機能を強化する②オール奈良の創業支援の窓口機能を強化する③フォローアップの徹底によりお客様満足度の向上を果たす、の三点で、私とアシスタントのコーディネータ(経営相談の専門家)13名、事務スタッフ2名の16名体制で対応にあたっています。

本年4月から事業5年目となる新年度であり、当拠点のパワーを更にアップし、事業者に徹底的に寄り添い、経営課題を事業者の皆様と一緒に解決し成果をあげてゆくことを力強く推進してゆきたいと思っております。皆様のご理解とご支援を、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

### けいはんなまちづくり協議会の事務局活動

事務局長 (理事 井原 章)

けいはんな学研都市精華地区まちづくり協議会(会長:(株)ケーピーエス工業(株)常務取締役 前川弥須彦氏)は、2009年(平成21年)8月に設立され、けいはんな学研都市の精華地区に拠点を構える企業が会員となり、学研都市に相応しい環境を維持発展させるとともに企業間相互の連携を深め地域の発展に寄与する目的で活動を行っています。現在の会員数は28社。



GMSは、精華町からの要請で設立時から事務局を担当しており、協議会として必要な運営規約・規程の制定や協議会の目的を効果的に達成するための具体的な活動企画と実施をマネジメントし、協議会活動の活性化に貢献しています。

これまでの協議会活動の成果としては、世界一の日時計(ギネス登録)から北極星目がけて照射されるレーザー施設の復活を地域住民との連携で実現したこと、学研都市で働く仲間の利便性向上や安全面の確保を主眼とした交通インフラ(バスの増便、屋根付きバス停の設置、交通事故が多発していた北側道路交差点への信号機設置など)の早期整備を実現



したことなどです。特に、学研都市の環境整備への貢献策として毎年強化月間を設定し実施している“美化運動”

**会員会社周辺の清掃風景** は、地域への貢献を評価

され、平成 29 年 6 月に開催された京都府開庁記念日式典にて山田京都府知事より“地域力再生功労者・団体賞”を頂きました。今後も事務局として、けいはんな学研都市の発展に積極的に貢献する活動を企画し実施して行く予定です。

### 奈良県の福祉事業所支援活動

(理事 事務局長 南部 英治)

奈良県協働推進課様より紹介いただいた福祉事業所支援をきっかけにスタートした社会福祉事業所とのお付き合いも 10 年になりました。この間お世話になった事業所は、社会福祉法人、一般社団法人、特定非営利活動法人等、事業所の形態は様々ですが、事業所それぞれに『障がいを持った方とともに如何により良い社会を築いていくか』を理念に掲げて活動されておられます。



取り組まれている内容の一つに障がいのある方が一般企業に就職し働いて経済的に自立した生活を応援する就労訓練事業があります。法人によっては働くための技能習得だけでなく、本人の健康面、社会生活面での訓練もできるような場として法人独自のプログラムを組まれています。このような取り組みにより、平成 28 年 6 月の全国障害者雇用率発表では奈良県が全国 1 位になりました。

しかし、障害のある方が働ける場所はまだまだ少なく福祉的な支援を受けて事業所内で、パン、ケーキ、ソーセージ等の食品づくり、喫茶店、織物・編み物の製作・販売、パソコン再生、ホームページの制作・運営、お茶の栽培など事業所それぞれに働く場づくりに取り組んでおられます。また放課後デイサービス等、児童の養育を始める事業所も増えています。

この状況の中、福祉に対する国の補助は年々減少傾向にあります。福祉事業所は障がいを持った方とともによりよい生活を過ごせる場を作ることを目指しながら、事業経営も進めなければならない難しさに直面しております。

このためチャレンジ企業支援隊としてもお手伝いできることは何かを考えながら事業企画の作成、商品開発の進め方、販路の開拓、パッケージデザイン制作等の支援活動を続けております。

### マレーシアでのロングステイを終えて

(GMS 元理事 吉川 猛雄)

GMS の会報にロングステイの話は相応しくないと思いましたが、定年後の過ごし方の一つとして私達夫婦のささやかな経験をお話しします。



ロングステイをしようと思った動機は、定年後続けていた仕事も一段落し、介護も終わり、長男家族が同居することになったことで住宅の問題にも不安がなくなったので、これまでの人生とは全く違うことをしてみたいということでした。

ロングステイ先にマレーシアを選んだ理由は

①政情が安定し、治安が良い。のんびりした国民性。②多民族国家のため、多種多様な文化、宗教が混在している。③英語が広く通用する。④年中温暖で冬がない。⑤地震、台風など自然災害が少ない。⑥自然が豊富で市街地でも緑が多い。⑦日本より物価が安い。⑧食文化が多彩で、おいしくて安い。特に果物が豊富で安い。⑨マレーシア・マイ・セカンドホーム (MM2H) プログラムという制度を設けており、10 年間滞在可能なビザ (査証) がある。⑩LCC (格安航空会社) の存在。復路のチケットに有効期限がなく、安い運賃で、マレーシアから他国への渡航も容易である。

ロングステイをして、「趣味やスポーツ」を存分に楽しみたいという方は多く



います。

### レダン島でのシュノーケリング

マレーシアは“ゴルフ天国”といわれ、ゴルフを楽しむ人が多いですが、二人の共通の趣味である社交ダンスを日本人会のクラブに入って楽しみました。

そこには日本人だけでなく、ローカルの会員もおられ、その人達の案内で、グループでマレーシアの島巡りを中心とした旅行、シンガポールを拠点としたクルーズなどを楽しみました。シュノーケリングは今でも忘れられない思い出となりました。3 年間のロングステイを終えて、日本人だけでなく、ローカルの人とも共に楽しむということが、ロングステイを成功させるポイントかなと感じています。